

# (仮称)市民産業交流促進施設に 野菜を出荷しませんか



国道1号沿道にあるイオンタウン湖南の隣接地に整備する「(仮称)市民産業交流促進施設」では、農産物や伝統工芸品などの直売所を設置する予定です。魅力ある直売所にするため、「生産者の顔の見える」新鮮な地域農産物を増やしたいと考えています。

市では、農業塾の開催をはじめ、地域農産物の増産に向けた様々なサポートをしています。魅力ある施設づくりにご協力ください。



## 市民農業塾を開講します！

市民の誰もがそれぞれのライフステージに合わせて農業に関わりを持てるよう、農業協同組合や関係団体、市内企業などと連携し、多様な担い手を育成する講座です。地域農業や食産業に関心のある人などどなたでも参加できます。

- 日時 【第1回】7月30日(土)  
午後1時30分～3時30分(受付:午後1時～)
- 場所 市民学習交流センター(サンヒルズ甲西)
- 内容 モクモクの取り組みと地域活性化
- 講師 木村修さん((株)伊賀の里モクモク手づくりファーム会長)



問産業立地企画室(共同福祉施設) ☎71・2353 FAX72・4820

例えば、自殺の要因としては、病気、貧困、家庭、人間関係、うつなど数十もの要素があり、それ

皆さんは「地域包括ケア」という言葉をご存知でしょうか。保健や医療、福祉といった社会保障サービスは、過去百年の間に行政が発展してくる過程で、例えば生活費がないとか仕事がないとかいう大勢の人たちを、「生活保護制度」や「失業保険制度」というように、誰でも公平に支援が受けられるサービスとして制度化し、救ってききました。さらには、困った人たちの種類ごとに、年金や介護保険、医療保険、障がい者自立支援、子ども子育て支援などの制度がつくられ、救われる人もたくさんいました。



しかし、最近では、そうして市民全体を対象にして公平で画一的に対応する制度だけでは救えない少数の人たちが増えてきました。例えば、自殺の要因としては、病気、貧困、家庭、人間関係、うつなど数十もの要素があり、それ

そのときに必要とされるのは、全員に同じサービスを提供するのではなく、困っている人それぞれに見合ったサービスを「見守り」「寄り添い」ということです。一人ひとりに対応してその人らしい人生を創るといふサービスは、これまで行政の仕事ではありませんでした。しかし、これからは行政だけでなく、地域のあらゆる主体が協力して、その人を包み込んで生活の質を高めるといふ方向に確実に進んでいきます。

それが複雑に絡み合っていることがわかっていきます。そうした人に決まった対応を処方するだけでは自殺は避けられません。同じように、ホームレスの人に住まいを与えても問題の解決にはならない場合があります。このように、現代社会には全員に同じ行政サービスを公平に提供するだけでは解決できない個人の生活上の課題があふれてしまっています。しかも、それが個人の問題におさまらず、いやや社会全体の力を削ぐまでに大きな問題となってしまっているのです。

そうした「地域包括ケア」社会の実現にご協力ください。